

令和5年度実施学校評価アンケートについて

はじめに

学校教育法第42条、第62条に、「文部科学大臣の定めるところにより当該高等学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」と規定されている。

これに基づき本校においても生徒、保護者による学校評価アンケートならびに教員による自己評価アンケートを毎年継続して実施し、それを検証することにより次年度への重点課題を設定し、さらなる本校の学校運営の改善と発展を目指すこととしている。

【重点目標】

1. 建学の精神の浸透【教育実践目標の推進】
2. ICT環境整備と情報活用能力の育成
 - ① 生徒の情報活用能力を育成する
 - ② ICTを効果的に活用し、分かり易く学びが深まる授業を実践する
 - ③ 必要時にオンライン授業・ホームルームを実施できる体制を構築する
 - ④ 校務の情報化を推進し、校務効率化を図る
3. 特色教育（コース・系、選択授業）の充実
 - ① 各コース色の更なる明確化を図り、校内外への特色理解を浸透させる
 - ② 大学・短大・専門各種学校・企業・地域との連携による教育活動の特色化を図る
 - ③ 国際交流および国際関連行事の活性化による国際教育の推進を図る
4. PDCAサイクルを意識した学校運営と、学習指導及び進路指導の充実

[学校運営分野]

- ① 各部署においてPDCAサイクル意識した校務運営を図る
- ② 研修の充実と活用により教員の指導力向上を図る

[教務（授業，評価，成績管理）関係分野]

- ① シラバス・カリキュラム整備
- ② 教務システム整備（調査書・指導要録）
- ③ 授業改革（ICT教育・アクティブラーニングの推進）
- ④ 観点別評価の移行（3観点への移行…2年目）
- ⑤ 教育支援システム（BLEND）の整備及び活用

[進路指導分野]

- ① 進路実現のための適切な進路指導体制の確立
- ② 大学入学共通テスト・その他大学入学者選抜対策の充実

[探究学習・学びの記録（ポートフォリオ）分野]

進路実現に繋がる探究学習の確立と学びの記録の定着

[教育相談分野]

教育相談体制のさらなる充実と学習保障への組織的体制の構築
転退学を抑止する取り組みの推進

1. 質問項目について

質問項目は 22 項目あり、内容は教育目標、宗教教育、学習指導、生徒指導、進路指導、防災安全教育、広報活動、教育環境、連携事業に関する質問、学校全体へのご意見（自由記述）で構成されている。自由記述を除く各質問項目（下記参照）に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」③「あまり思わない」④「思わない」の中から一つ選び回答する。すべての質問項目に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」と答えた場合、これを肯定的な回答に分類し、③「あまり思わない」④「思わない」と答えた場合、これを否定的な回答に分類し、まとめを行った。

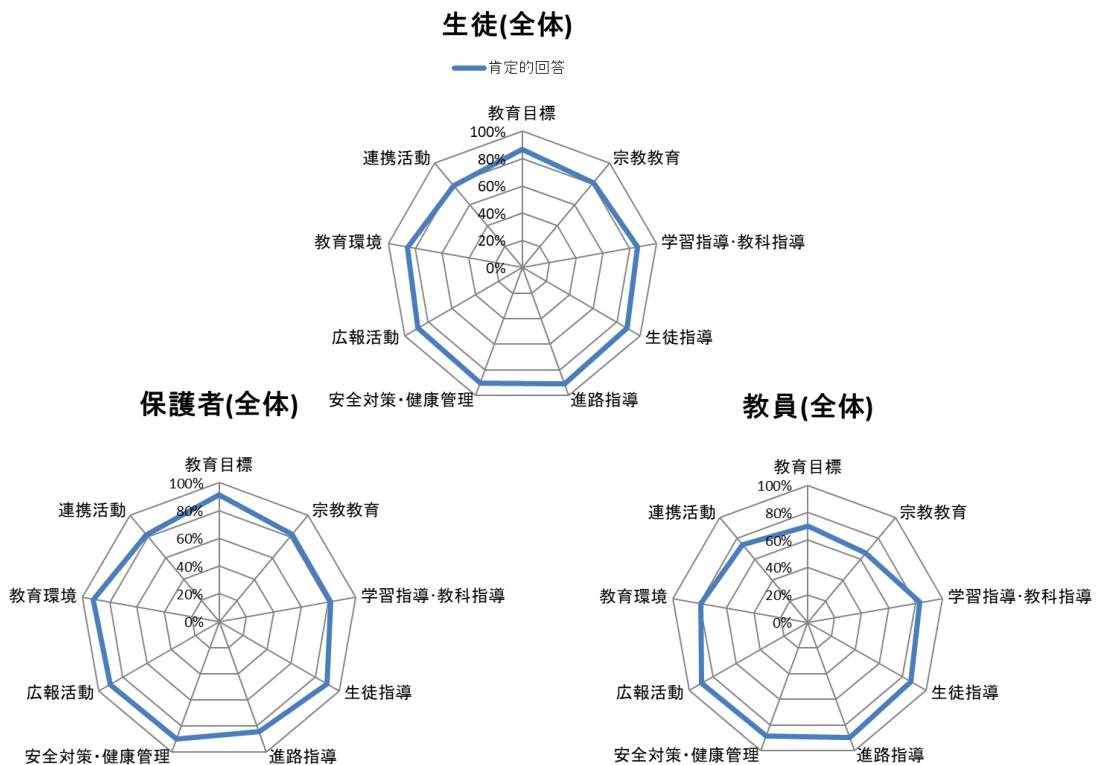
2. 実施内容

実施時期：令和 5 年 12 月下旬～令和 6 年 1 月
 調査対象：両キャンパス生徒・保護者・教員
 調査型式：匿名アンケート調査・・・オンラインアンケート
 回答率：

生徒回答率	76.7
保護者回答率	54.7
教員回答率	70.8
全体	67.9%

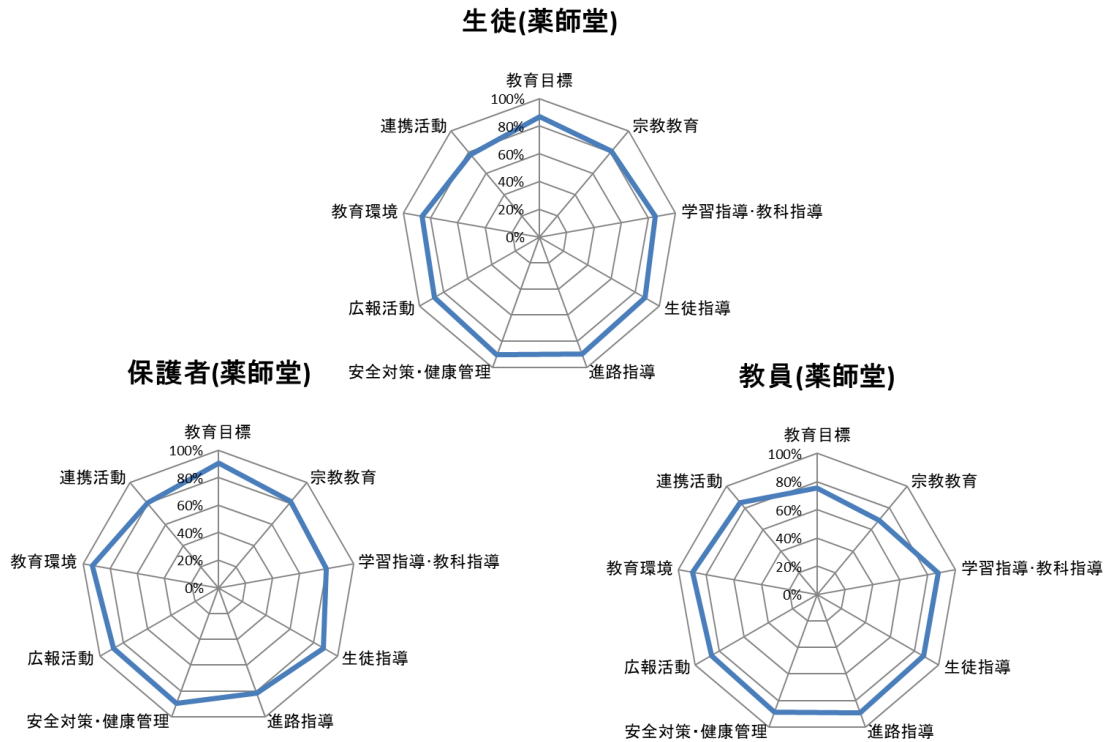
3. 生徒、保護者、教員アンケート分析チャート

【学校全体(両キャンパス)】

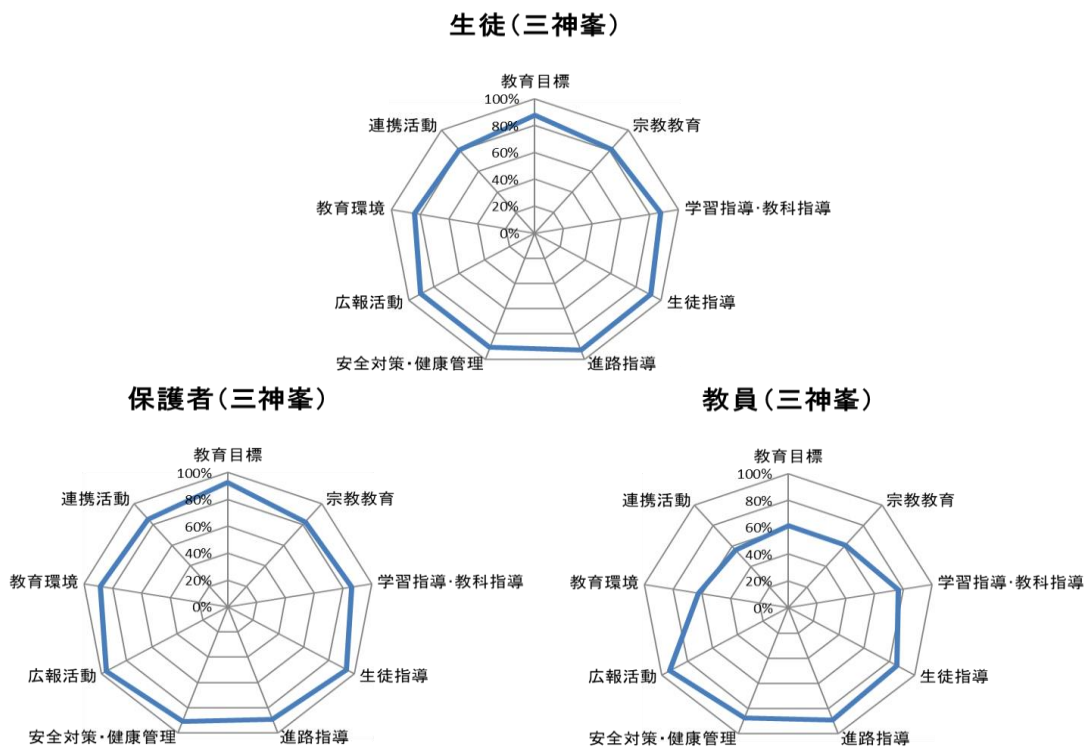


4. 生徒、保護者、教員アンケート分析チャート

【薬師堂キャンパス】



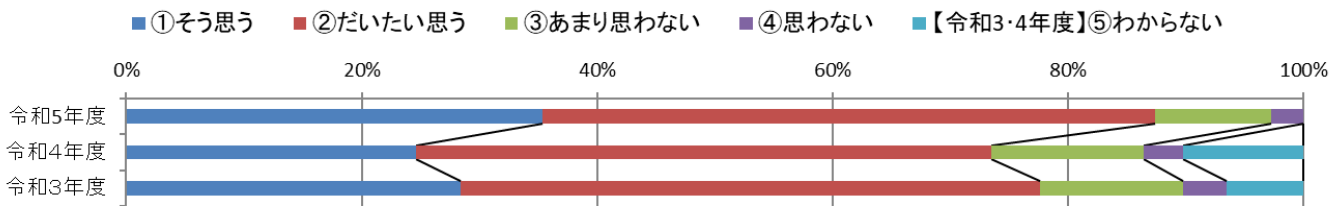
【三神峯キャンパス】



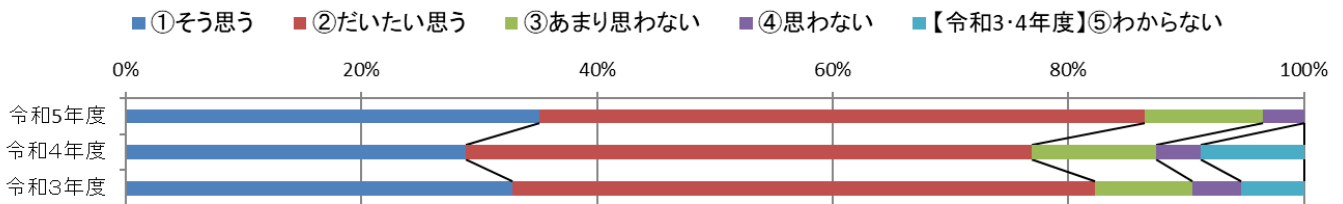
【令和3年度～令和5年度質問項目別経年比較(生徒回答)】

※令和5年度は回答の選択肢「⑤わからない」を削除し学校評価アンケートを実施した質問項目

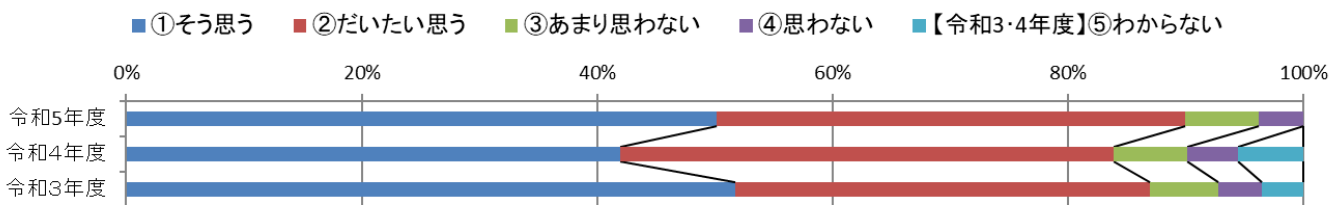
1.生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



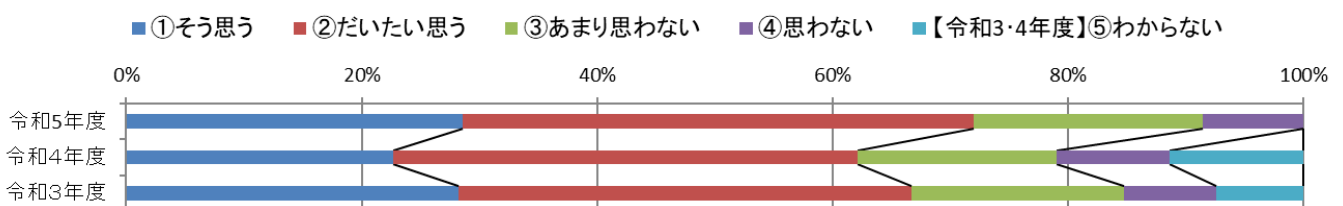
2.本校のコース、教育課程は生徒の個性を伸ばし、将来の希望を達成できるよう工夫されている。



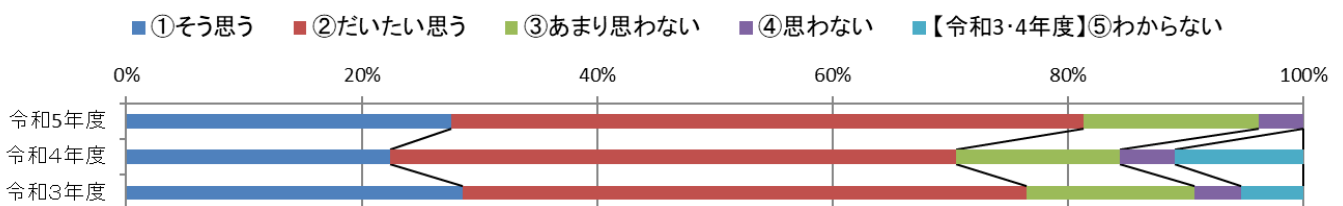
3.生徒は週一回の勤行や宗教の授業を通じて、仏教を身近に感じることができた。



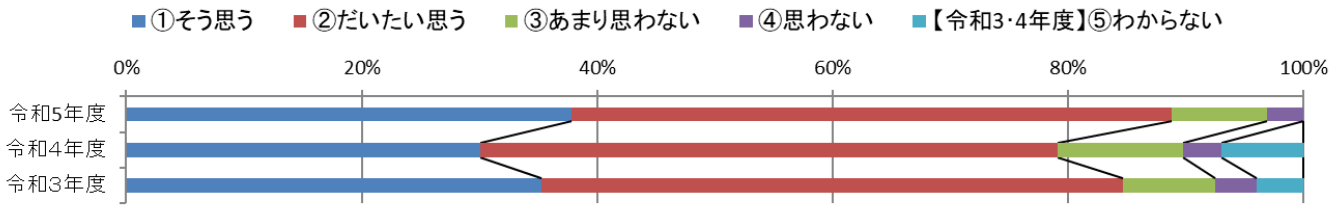
4.生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動にいかしている。



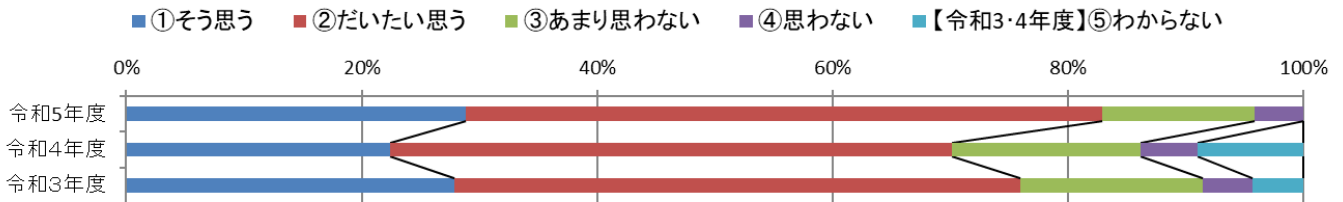
5.授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。



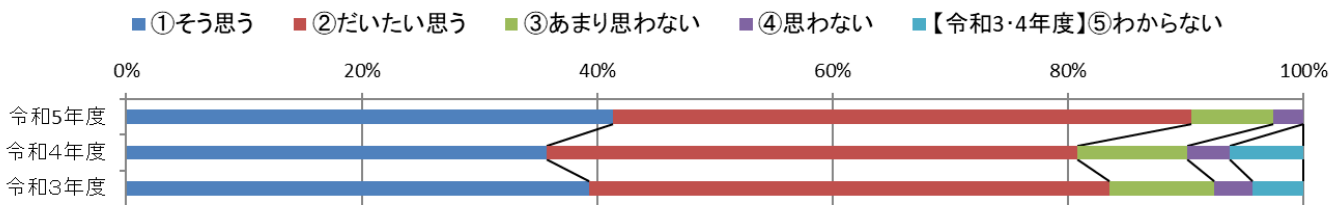
6.授業では各先生が、教材や教え方を工夫し熱心に指導している。



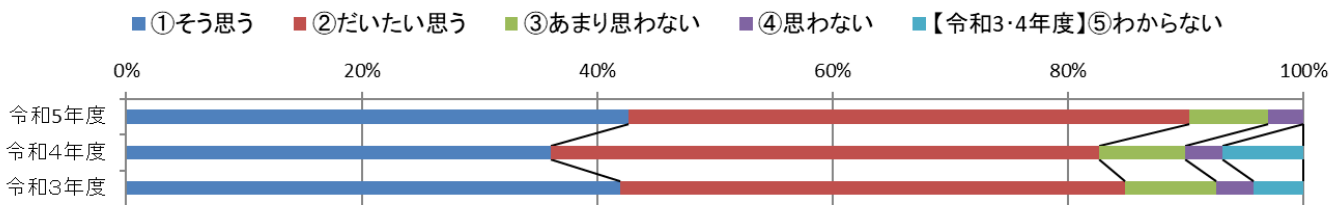
7.生徒にとって学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。



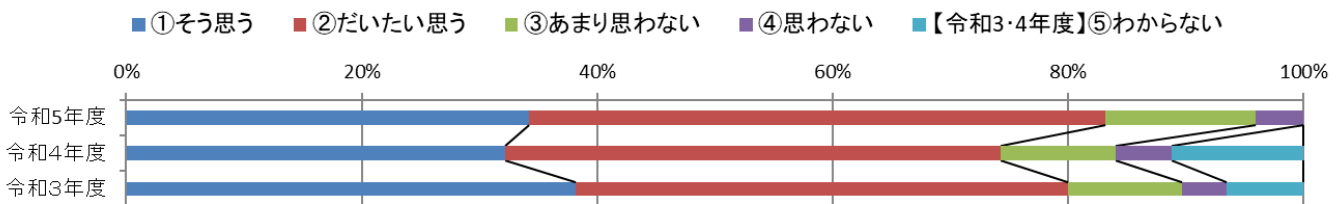
8.評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



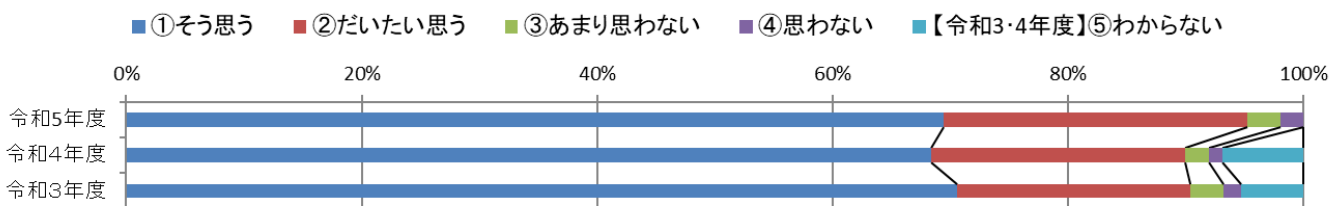
9.挨拶やマナー等の基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。



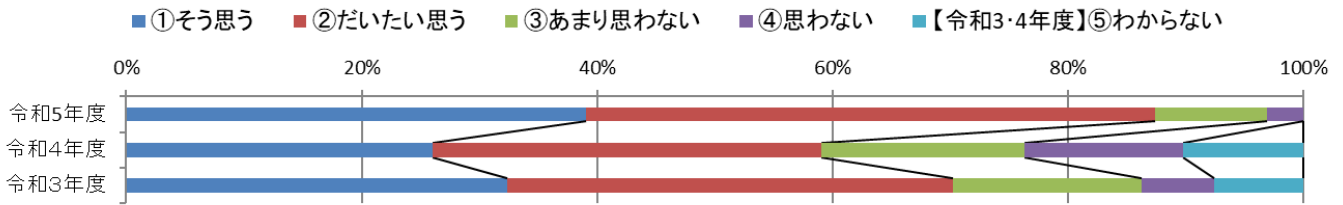
10. 必要ときに相談に応じてくれる体制ができている。



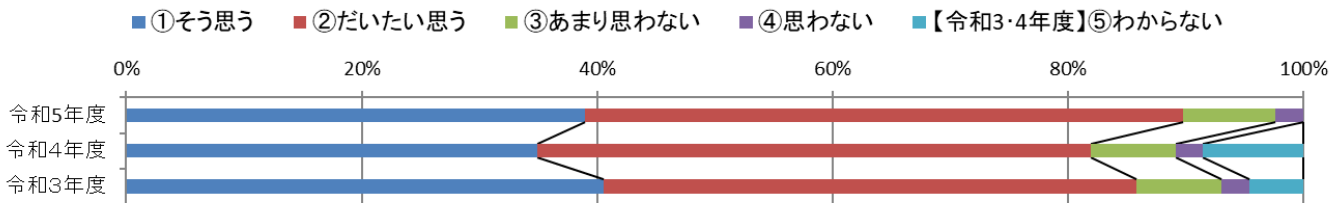
11. 部活動は活発に行われている。



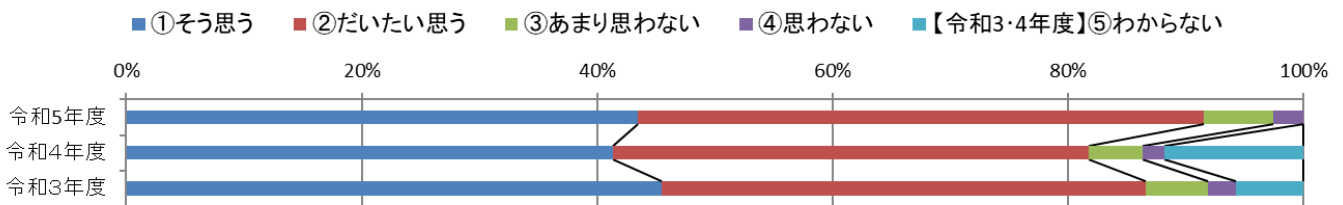
12. 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



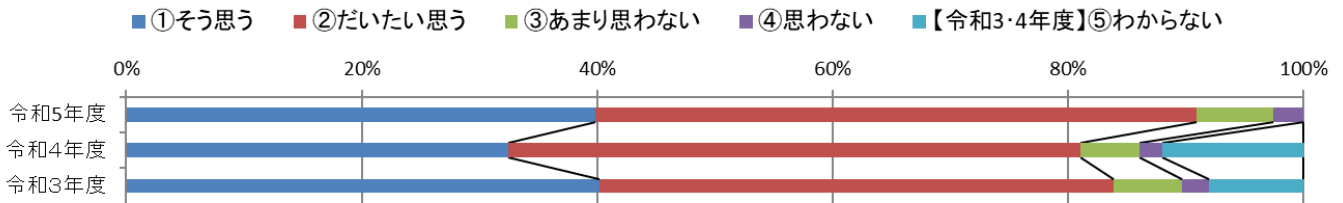
13. 進路に関する情報は十分に提供されている。



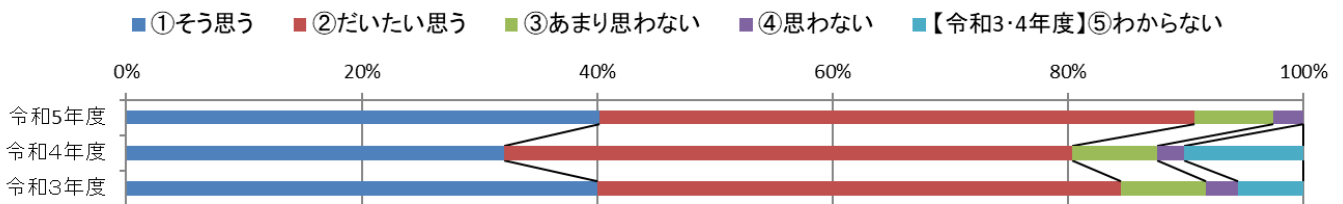
14. 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



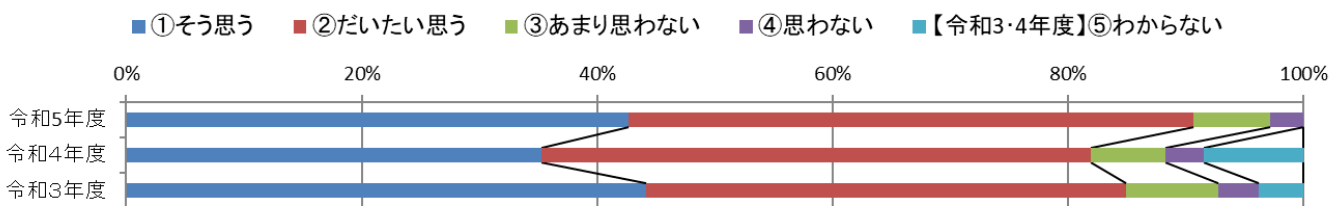
15. 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



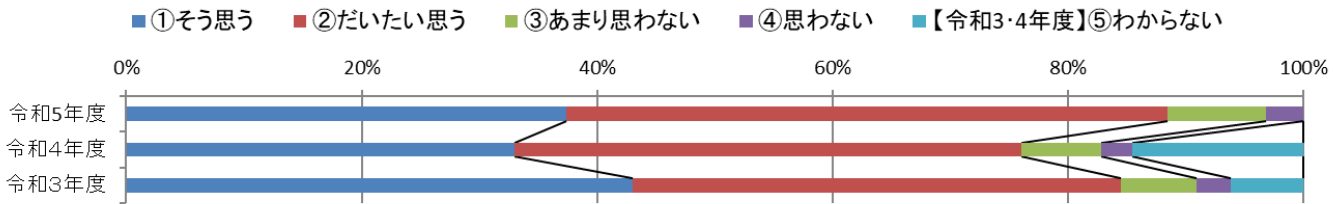
16. 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



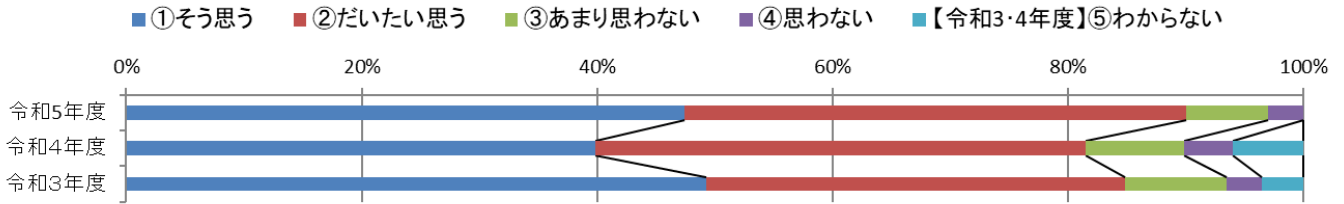
17. 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



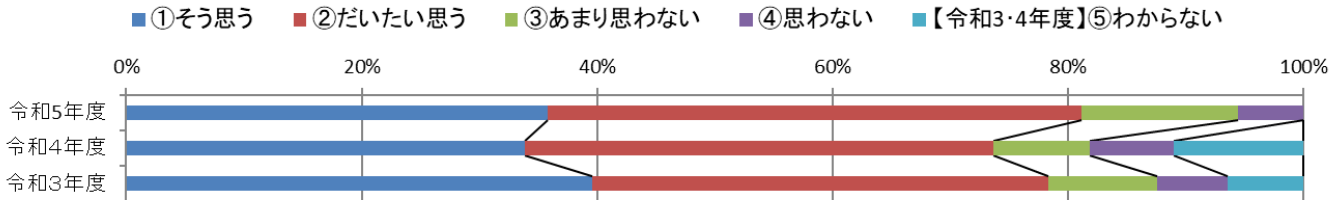
18. 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



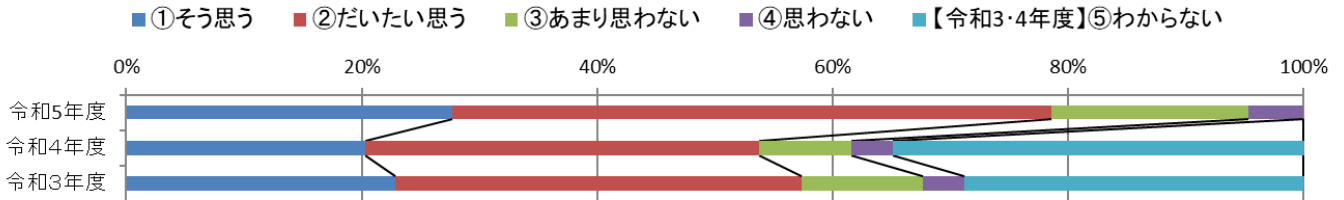
19. 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20. 聖和学園高校に入学してよかったと思っている。



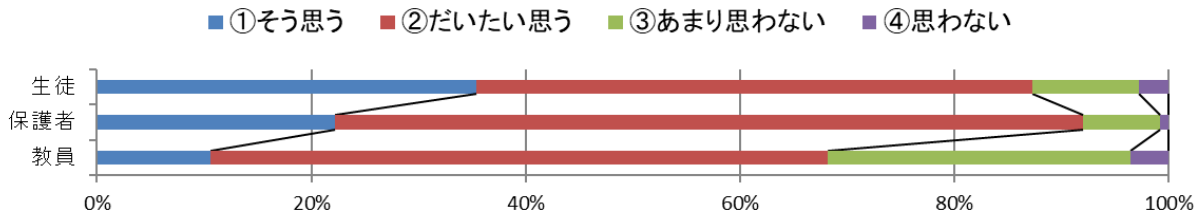
21. 連携活動（高大連携・地域連携・産学連携・保護者教師会との連携・同窓会との連携）は活発に行われている。



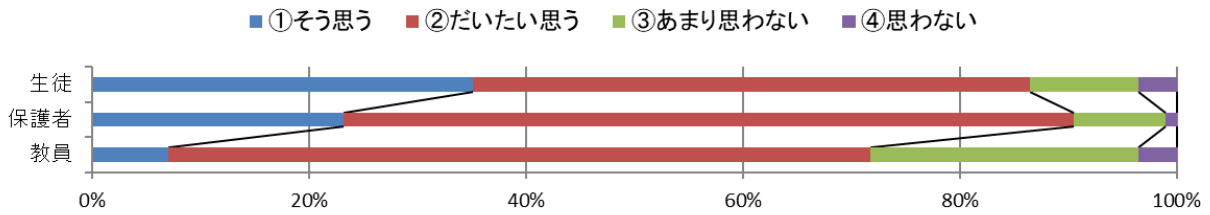
【令和5年度質問項目別比較（生徒・保護者・教員）】

質問項目

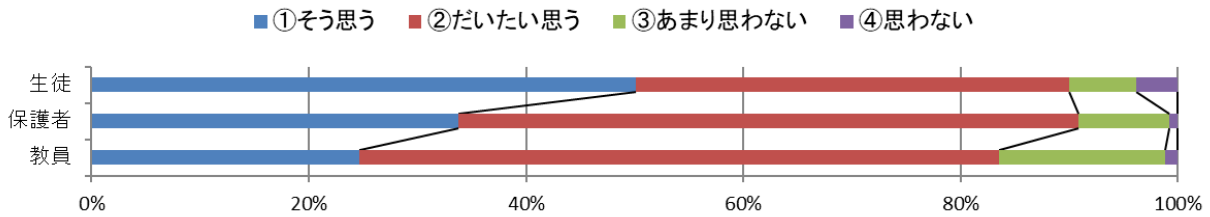
1.生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



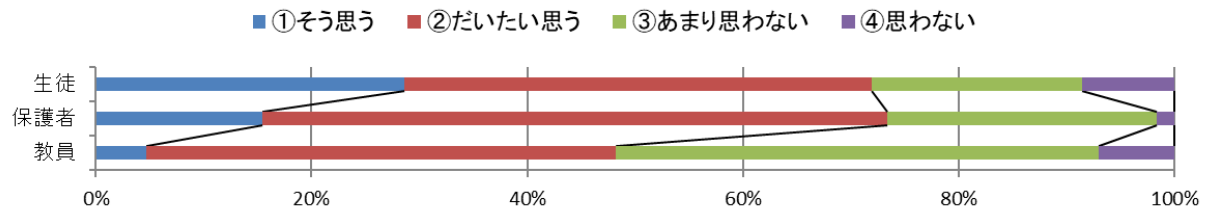
2.本校のコース、教育課程は生徒の個性を伸ばし、将来の希望を達成できるよう工夫されている。



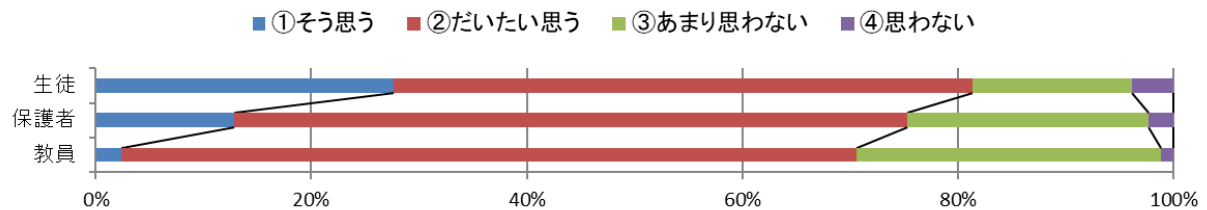
3.生徒は週一回の勤行や宗教の授業を通じて、仏教を身近に感じる事ができた。



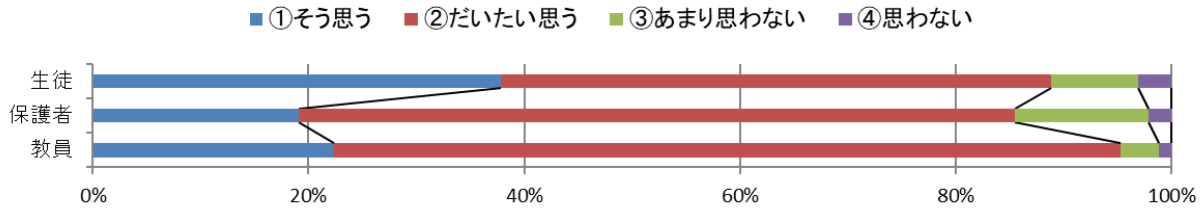
4.生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動にいかしている。



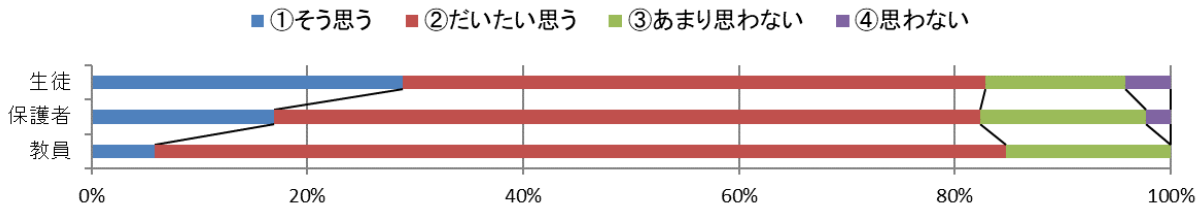
5.授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。



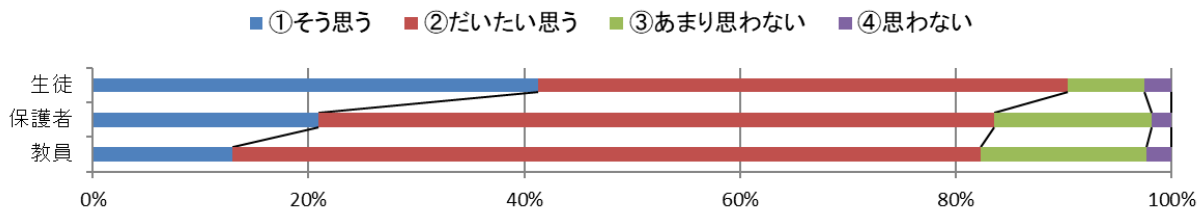
6.授業では各先生が、教材や教え方を工夫し熱心に指導している。



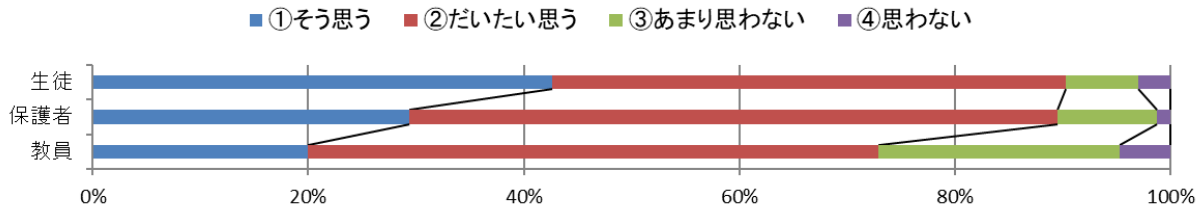
7.生徒にとって学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。



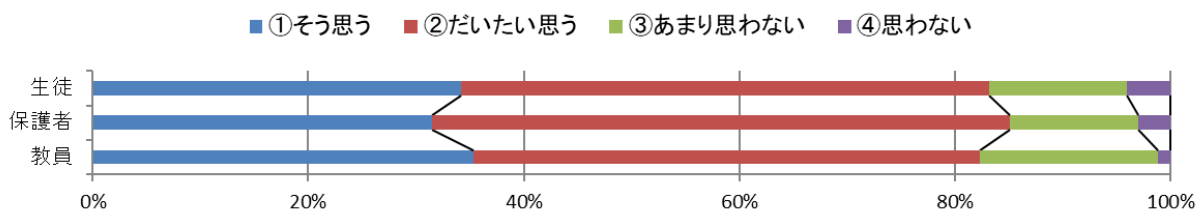
8.評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



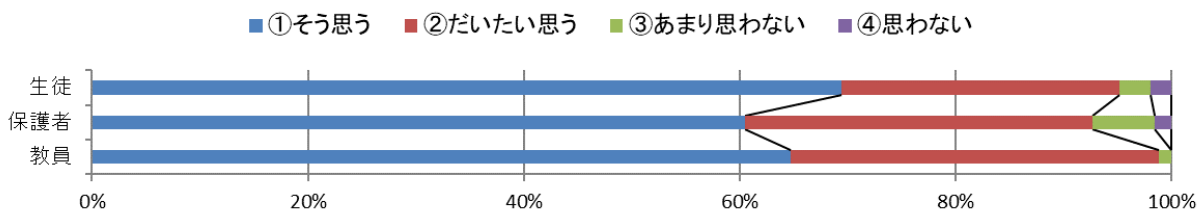
9.挨拶やマナー等の基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。



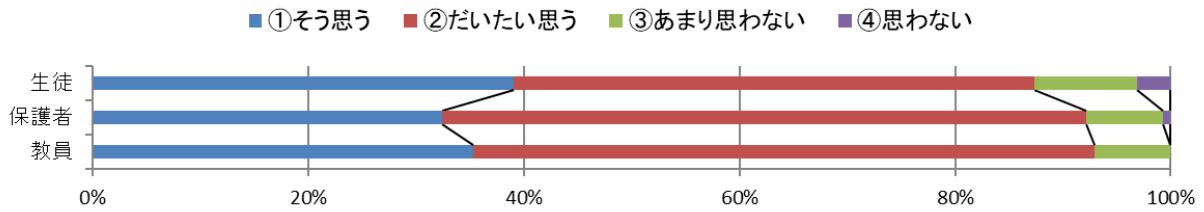
10. 必要ときに相談に応じてくれる体制ができている。



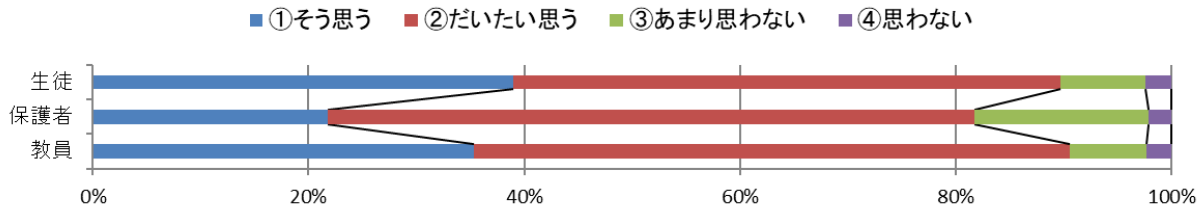
11. 部活動は活発に行われている。



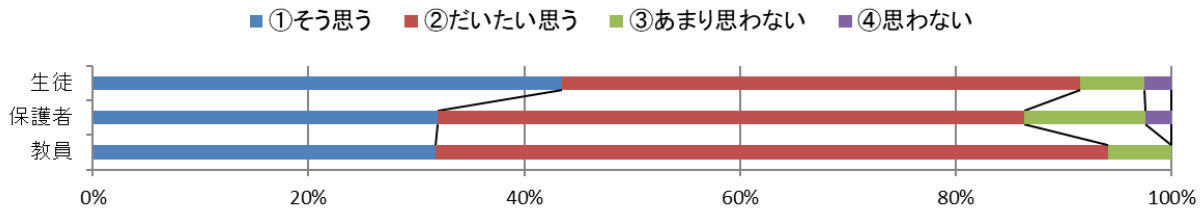
12. 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



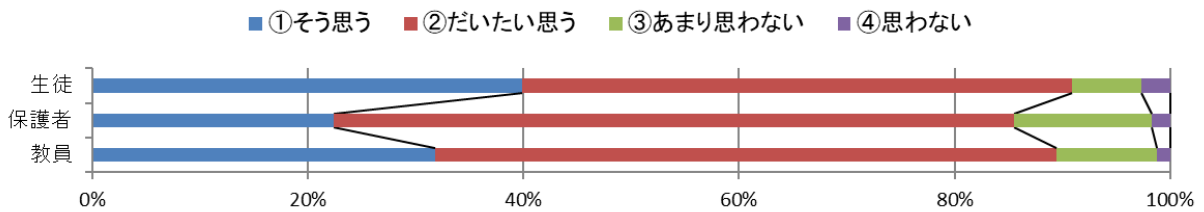
13. 進路に関する情報は十分に提供されている。



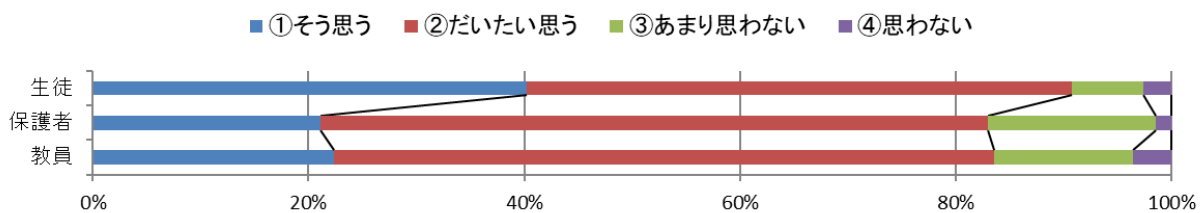
14. 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



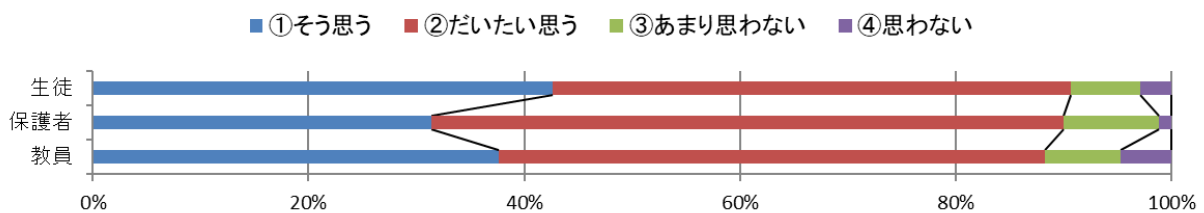
15. 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



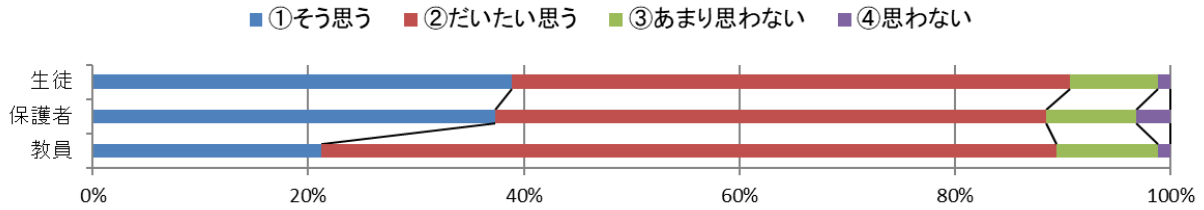
16. 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



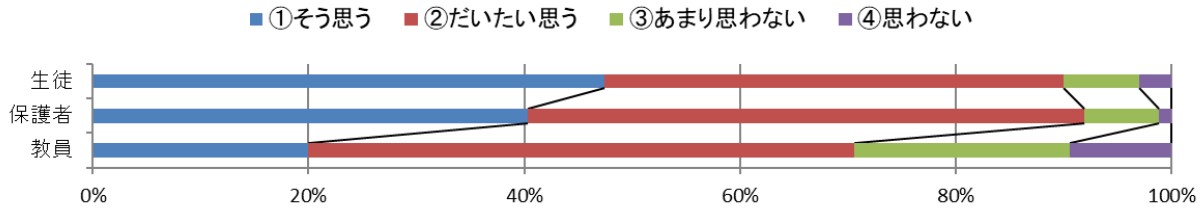
17. 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



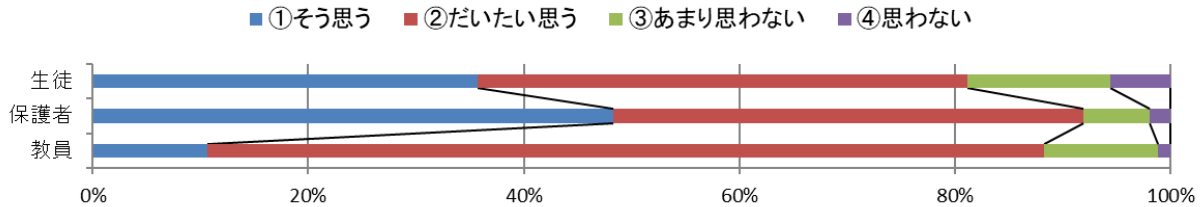
18. 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



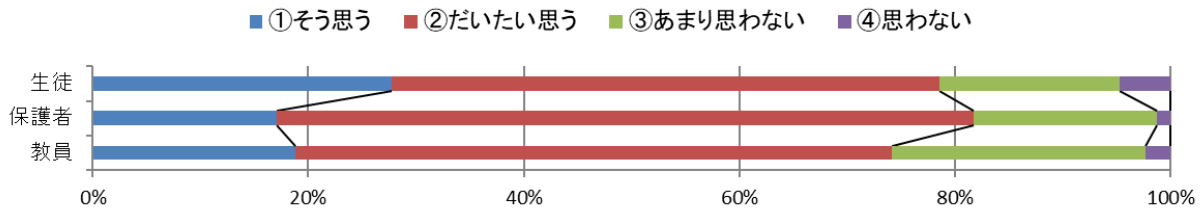
19. 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20. 聖和学園高校に入学してよかったと思っている。



21. 連携活動（高大連携・地域連携・産学連携・保護者教師会との連携・同窓会との連携）は活発に行われている。



分析と今後の取り組み

《概況》

すべての質問項目に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」を肯定的評価とし、その割合を算出した。過去3年の評価は次の通りである。なお、回答の選択肢について、今年度は4択でアンケートを実施した。3年間の評価を表にまとめると下記のようなになる。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生徒	80%	76%	87.0%
保護者	75%	75%	87.9%
教員	81%	76%	83.8%
全体	79%	76%	86.2%

昨年度同様、今年度も連絡ツールとして利活用している教育支援システムのアンケート機能による回答方法で12月にオンライン実施とした。生徒や保護者にとって教育支援システムへのアクセスはしやすい。しかし、既読されるものの回答まで至らずに苦慮したが何とか昨年度同様の回答率まで伸ばすことができた。回答の選択肢が昨年度と異なり過年度との比較が難しいが、過去の結果も参考としながら纏めていくこととする。今後も信頼性あるアンケート結果となるよう、回答率向上に努めたい。

《生徒回答について》

全体評価として、14の質問項目で昨年度よりも肯定的回答の割合が高いという結果だった。特に質問12（生徒会活動や学校行事は活発に行われている）については肯定的な回答が2割以上上昇した。レーダーチャートによる分野評価のバランスがとれていることから、全体評価としては概ね良好な結果と受け止めている。

令和5年度について質問別にみていくと、Q1及びQ2の教育目標分野の質問（建学の精神・校訓の理解及びコース・教育課程）の肯定的回答割合が安定的に8割以上となったことは嬉しい結果である。さらにQ3の宗教に関する質問（生徒は週一回の勤行や宗教の授業を通じて、仏教を身近に感じることができた）についても肯定的な回答の割合が9割という結果が出ていることから、朝の行や勤行の取り組みが、心を落ち着けて1日をスタートできる良い生活習慣に繋がっていることは実感として挙げられる。

また、Q5～8の学習指導・教科指導分野(教材・教え方の工夫・授業展開・評価基準)の質問についての肯定的な回答の割合が高い。令和4年度の入学生から学習指導要領が改訂された。令和5年度は新旧の学習指導要領が混在していたものの、教員も授業展開や評価基準など教科内で検証し確かなものにする努力を重ねた結果と思われる。今後も定期的に教科会議を開催し評価基準について情報共有を図ることや、研究授業や校内公開授業を継続し、互いの授業の在り方を検証していくこととしたい。

また、Q12（生徒会活動や学校行事）については、新型コロナウイルスが5類となり通常に近い形で学校行事や生徒会活動を実施することができたことが高い肯定的評価へとつながったと推測される。今後も感染症とうまく共存していかなければならないが、生徒の学校生活を彩り、学校生活への意欲を高める各種行事の運営に工夫しながら学校生活の活性化を図っていきたい。

《保護者回答について》

全体評価として、2つの質問項目で昨年度よりも肯定的回答の割合が高いという結果だった。また10の質問項目については、肯定的な回答が9割程度であった。特に質問12（生徒会活動や学校行事は活発に行われている）については肯定的な回答が1割近く上昇した。

令和5年度について質問別にみていくと、Q11（部活動は活発に行われている）、Q20（聖和学園高校に入学してよかったと思っている）について、特に保護者の方から高い評価を得ていることが大変嬉しい結果である。しかしながら、この質問については、否定的回答は限りなく0を目指すべきであり、今後さらに保護者の方々の声にも積極的に耳を傾けていきたい。

一方、Q4（生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動にいかしている）、Q5（授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる）は肯定的な回答の割合が7割程度であり、他の質問項目と比較すると低い結果であった。Q4については新型コロナウイルスが5類となったが、仏教行事の実施方法についても、両キャンパス合同であるか、キャンパス毎に実施するか慎重に検討した結果であると受け止めているが、保護者の方々への情報発信も心掛けたい。Q5についてはシラバスを共有し、授業の目標や計画、評価方法についても保護者の方々へ明示していきたい。

今後もよりきめ細やかな情報提供など、次年度以降の取り組みに工夫していきたい。

《教員の回答について》

全体評価として肯定的な回答の割合が生徒及び保護者と比較してどの質問項目も低いという結果であった。生徒及び保護者の回答と比較してみると、教員が特に課題点と考えている分野はQ1、Q2（教育目標）、Q5（授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる）である。肯定的評価が1割程度低く、学校の根幹である建学の精神や校訓、教育課程やコースの在り方、授業について課題を感じている表れと言える。まずは、教員が課題と考えている点は具体的にどのような点にあるのか明確化したい。その上で生徒保護者の受け止めとどの点が異なるのか比較し、具体的改善点を見出していきたい。また、連携事業は保護者・同窓会との連携については勿論のこと、特にリベラルアーツ、プロGRESS及びジェネラルスタディ各コースにおいて部門強化を図り、高大連携・地域連携・産学連携を柱として事業の活性化に力を注いできた。その成果が表れはじめているため、引き続き次年度以降さらなる発展をめざしたい。